



ニ/ユ/ー/ス/足/報/ 毎月15日ごろまでに2連発を
公民館作品展と同時に開催された第1回陽春花物展示会。

子供たちが巣立つ日

小学校 319人 が卒業
中学校 400人

中学校の卒業式は3月14日(水)、小学校の卒業式は3月23日(金)にそれぞれ行われました。また、保育所の卒業式は3月27日(水)でした。
なお、各学校、保育園の卒業生・卒園生の人数は下表のとおりです。

平成元年度卒業生			
	男	女	計
黒鳥小	8	7	15
木場小	14	15	29
山田小	42	32	74
大野小	65	68	133
板井小	10	12	22
立仏小	20	26	46
計	159	160	319
黒崎中	207	193	400

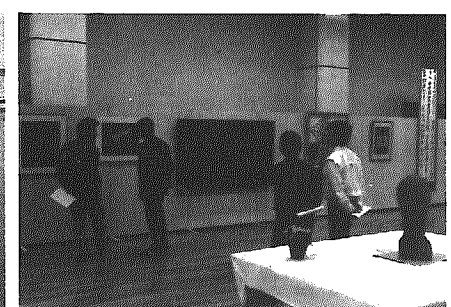
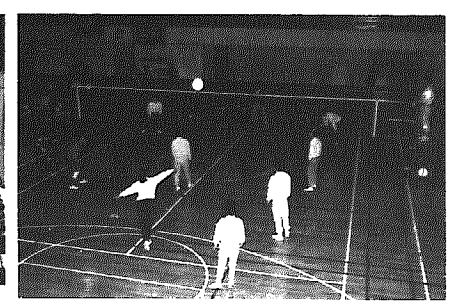
保育所			
	男子	女子	合計
大野	26	38	64
興野	28	15	43
善久	12	14	26
山田	22	24	46
立仏	18	12	30
寺地	15	16	31
木場	16	15	31
板井	14	10	24
黒鳥(私立)	5	15	20
合計	156	159	315

ソフトバレー大会に18チーム

二月二十五日(日)、総合体育館で第一回ソフトバレーボール大会が開かれ、町内から十八チームが参加、熱戦を繰りひろげました。ソフトバレーボールはだれにも気軽にできるスポーツとして昨年からの町教委が普及し始めたもの。結果は、優勝・板井、二位・ソフトレディ、三位、大野A、立仏A、敢闘賞・金巻B。

成果一堂に。公民館作品展

町内の、公民館を中心とする各種講座・サークル活動の一年の成果を披露する公民館作品展が、三月三日(日)四日(日)の二日間、北部地区公民館で開かれました。絵画・書・木目込み人形・編物・園芸など十六グループが参加し、会場いっぱい一年の成果である作品を展示。今年で、回目ですが、すっかり定着しました。



第3回県展作家作品展

三月二十一日(水)から二十五日(日)まで、北部地区公民館で第三回県展作家作品展が開催されました。町内在住の県展入選作家の作品を広く町内外に紹介し、町の文化・芸術の高揚を目的に開かれたもの。今回は二十一人の皆さんの絵画・書・写真・工芸・彫刻など四十七点が展示されました。入場者は五日間で約二百人。

サケの稚魚50万尾放流

三月十六日、大野五区の中ノ口川河川敷の交通公園で、小学生の手によりサケの稚魚約五十万尾が放流されました。信濃川漁業協同組合が、毎年町内の小学校五年生を対象に行っているもの。当日は大野・木場・黒鳥・板井の四小学校の児童が参加、「帰ってこいよ」といいながら、次々に稚魚を放流していました。

公民館作品展は2回目。今年は盛況ですね



木目込み人形のなでしこ会の講師をしています。公民館作品展へは2回目の出展です。今年は盛況ですね、皆さん、関心を持ってもらえるようです。人形の好きななた、なでしこ会へはもう少し来ていただいてもかまいません。前川スエさん(寺地中・60歳)

煎茶は稽古のつもりで公民館作品展に参加



北部地区公民館で昨年からはやっている煎茶クラブの講師をしています。公民館作品展へは稽古のつもりで参加させていただきました。煎茶は意外と気楽にできます。4月から初心者コースを始めます。皆さんもやってみませんか。北村翠蓮さん(興野1区)

◆緒立遺跡と黒鳥兵衛

緒立C遺跡の発掘調査と同じ時期、すぐ隣の場山でも開発前提の発掘調査が新潟市教育委員会の手で進行中だったので、二、三回お邪魔してみた。

これも正式発表を待ちたいが、まず感じたのは緒立と同じく遺物の包含層が海抜以下のことと、壮大な居館をしのばせる太い柱や柱根・樫・網のおもり・墨書土器などが出土していること他に、ガスが随所に発生していることと黒い油状の浮遊物があることであった。

黒鳥軍記(越後村名尽、北海軍鎮録)という軍記本があり、そこに黒鳥兵衛の話が出ている。それについて、日本石油動

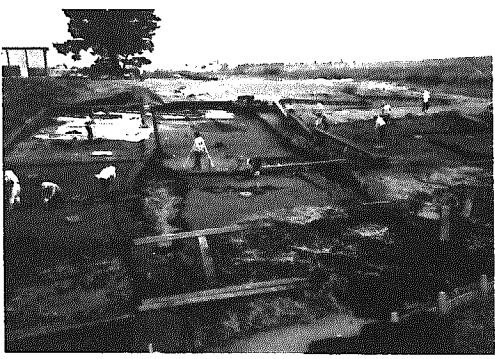
務だった後藤茂夫氏は「黒鳥兵衛は実在していた——天然ガスを背景とした伝説の英雄について——」という文章の中で「新潟市を中心に蒲原五郡では黒鳥兵衛の話、すくなくとも黒鳥の名前を知らない人はいないだろう」という。そして、黒鳥軍記の物語はまず伝説があって、それを骨子にして後代の筆述者が作り上げた物語であるとしている。さらに燃える水、火矢など兵衛の使った妖術や胴鳴なども今日の知識からすれば、天然

緒立路散策

緒立遺跡と黒鳥兵衛の関係について

ガスの噴出や石油などの効果的な利用ではなかったか、とも言っている。悪人に仕立てられて滅ぼされ、その胸が埋められた塚の上には時の権力者たる源氏の守り神・八幡神を分祀して、その悪霊を鎮めたのが緒立八幡宮の始源だと推理する。

ここで大胆な筆者の推理が許されるならば、五世紀前半に三十メー



緒立遺跡発掘現場(平成元年11月撮影)

トルの円墳(帆立貝式の可能性も検討の余地あり)に葬られた被葬者の子孫と一族が、もしかしたら長く宮々とその地位とテリトリーを守り続けていたのではないかと。そして、その中に兵衛詮任の原像が存在したのではないかと。

黒鳥軍記の物語は登場人物・地名などからして完全なフィクションであるという説が有力である。しかし、いままでも一つ史実への手がかりがなかったこの物語に、文献からでない、考古の面からノンフィクションたりうる可能性が、今回の遺跡発掘によって、一つ暴かれたものにとらえ、広く関心を持つ皆さんがたにアピールして、越後における歴史上、初めて登場する郷土の英雄・兵衛詮任の実像に迫りたい、と念願するのは筆者一人だけではないと信じていた。

時、齊藤先生の所有)にある「木場城」の所在はオクテ(御館)以外にない、齊藤先生は極論され、八幡宮社地を「城将山吉玄藩丞奮戦之跡」という標札を立てたらどうか、といわれたことを思い出す。そんなこともあって、すぐその後に、先年物故された氏子惣代鷺尾員一さんを口説き、緒立八幡宮の御神体を齊藤先生に見ていただくところまでこぎつけた。



神楽殿として使われたこともある参考館

最近、各地で古代史を書き替えるほどの価値を持つ貴重な発見・発掘が相次いで報道されている。幻の英雄・緒立の王者が、果たしてどんな遺物とロマンを抱いて、この緒立八幡宮の古墳に眠っているのだろうか。そして、何を訴えているのだろうか。

◆緒立八幡宮
古墳の管理や供養のための御堂か、兵衛の鎮魂社か知らないが、少なくとも十二世紀ころにはこの社の始まりがあったものと思っている。

た。それは松の寄木造、全高一尺五寸(四十五センチメートル)頭部欠失、僧形で鎌倉時代末期の造像といわれたことを記憶している。しかも、袱紗に包まれ、後代の新しい御神体のお脇様の状態とのことである。

鷺尾さんを始め、全員平伏(目がつぶれると言われた)していたので、確実なこととはわからないのだが、この際、もっと権威のある学術的な再調査が必要ではなからうか。

布川 忠一

三の鳥居(二の鳥居は現在その跡のみである)をくぐる、右手にやや小形の建物があるが、その昔は郷社であったという当社の随神門だったと言われており、筆者の子供のころは神楽殿として使われ、そこから続く棧敷に稚児たちの舞いを見たものだった。明治十七、八年ころ、拜殿の土盛を行っての大改築工事の時は臨時拜殿の役目を果たしたということをご老から聞いていた。本殿も造営時には相当規模の土盛がなされたものと思われるが、その採取用土中に先述の古式土師土器が現れ、おそれ敬った部落民が造殿の邪魔にならない頂上付近に埋めなおしたものではないかと思っている。

※次回遺跡発掘の動機と発掘にまつわる内輪話を予定